

# 旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

## 医療のグローバル化

病院長 石川 睦 男

近年の人、物、金、技術、情報の国境を越えた動きの加速に伴い、医療の分野でもグローバル化が急激に進んできている。最近、アジアの医療の現状を視察する機会を得たので病院の国際化、さらに大学ならびに大学病院の国際化について考えてみたい。

昨年11月、世界産婦人科学会に出席のためマレーシアのクアラルンプールを訪問した際に Gleneagles Intan Medical Center Kuala Lumpur (グレンイーグルズメディカルセンター) を視察した。ここは広範囲の医療サービスを提供する急性期の私立病院でシンガポール Parkway Hospital と協同運用されている。診療内容は肝臓移植や心臓血管疾患、白内障の先端治療など、良質で、優しいサービスをうたい文句に世界を対象に患者さんを集めている。ホームページは日本語でもアクセス可能であり、各国からくる患者さんに対して通訳が常駐しており、看護師を含めた2人の日本人の女性が勤務していた。個室は7500円位から53000円まで様々なタイプがあり、特別室は秘書室もついて1泊12万円であった。ただし室料には、食事が含まれている。この病院が患者さんを積極的に国外から集めようとしていることは、病院の副理事長との会談の中で日本の医療状況を私から情報収集しようとする姿勢からも明らかであった。



同様な動きはタイのバンコックにもあり、私立の国際病院に日本から年間1万6千人もの患者が押し寄せている。その理由はコストパフォーマンスであり、日本で保険適応外の診療が日本の半額以下のコストで比較的高度のレベルの診療が受けられることにある。また、インドのニューデリーにある心臓疾患専門の私立病院は年間5000件以上の手術を行い高い成功率を誇っている。この病院の、年間患者15万人のうち約1割が国外から訪れている。インド政府は「医療ツアー」として積極的に患者集客を目指している。

また、本年の1月31日から2月4日にかけて招請講演のため、本学と国際交流協定を結んでいる中国の瀋陽市の中国医科大学を訪問した。約11年前の訪問と比べて、700万人の瀋陽は急速な発展を遂げ建

物は新しいビルとなり、自転車に代わって行き交う車はほとんど外国製の新車と目を見張るばかりであった。附属第二病院は設立も最も古く、最大の1,969ベッドを有するが、全て近代的に立て替えられ、病床は3ベッドが基本で個室も多数あり特別室は1日、日本円で2万2千円であるが待機患者が多く常に満室である。病床の稼働率は104%、平均在院日数は11.5日と私の立場としてはうらやましいが、遼寧省の最大の大学病院で患者も多いことから、と自分を納得させた。病院の設備は日本とほとんど遜色ないが、超音波診断装置が産婦人科では各診察室にはなく多くの患者の混雑の要因になっているが、ヘリポートを備え、PETが2台あると聞き中国の医療が急速にキャッチアップしてきているに驚愕した。



中国医科大学には博士、修士課程を含め17,571人の学生が在籍するが香港、台湾、さらにアフリカ、日本、欧米など1,471人の留学生が学んでおり今回の訪問で多くの国外留学生が目立った。中国医科大学の特徴は七年制日本語クラスと六年制の英語医学クラスがあることで、以前本学の産婦人科教室で留学し学位を取得した潘先生は彼の英語と日本語の能力を生かして国際交流課の次長としてこれらの教育に活躍している。また、奥さんの高さんは潘先生の帰国後1年一人で旭川に残り本学の看護の修士の学位を取得したが、現在は、日本での体験を生かして附属口腔病院の看護部長として活躍している。

以上アジアの医療の国際化について述べてきたが、医療産業としての患者の受け入れ、教育産業としての留学生の受け入れという流れがますます進むことが予測される。大学としては、国際的に発信できる研究成果と国際舞台で活躍できる医療人の養成が求められている事は論を待たない。地域医療への貢献も、国際的視野に立ってみると、見えてくるものもあるかと思う。本大学病院がグローバル化した国際社会と連繋して、特徴ある先進医療を展開することで、海外からも患者を受け入れる体制の整備の急がれることを強調して筆を置く。

## 定年退職にあたって

第一内科長 菊池 健次郎

平成19年3月31日付で定年退職を迎えることになりました。平成4年8月16日付で本学内科学第一講座・第一内科（現循環器内科・腎臓内科・呼吸器内科・神経内科）の担当者として赴任致しました。平成4年9月30日発行の旭川医大病院ニュース（第42号）では、「就任にあたって」と題して冠循環（循環器内科）・肺循環（呼吸器内科）・脳循環（神経内科）に腎循環（腎臓内科）を加え融和させ、第一内科を総合力にあふれる循環器（総合）内科に発展させたいとの抱負を述べております。以来、14年7ヶ月間にわたりその抱負を達成すべく努力してまいりました。この14年余を振り返りますと、数少ないスタッフの中で、広い領域をカバーする有能な教室員がよくここまで育てくれたなど、ほっと安堵する気持ちと今後の彼らの大きな飛躍を期待する気持ちが半ばし、感慨を深くしています。一方では卒後臨床研修制度導入後の若い人材確保における先行の不透明

感にもどかしさも感じております。しかし、現在、内科3科、総合診療部は一体となり本学の卒後研修カリキュラムの充実・柔軟化、情報収集・情報発信の強化を進めており、明るい展望が切り開かれるものと信じております。平成15年8月から平成17年7月まで副病院長（経営改善・病院改革担当）地域医療連携室長、ボランティア委員会委員長を仰せつかりました。この間、第一内科の教室員、教室のサポーターの皆さんはもとより病院各部門の皆さん、ボランティアの方々には多大な御協力と御支援を頂きました。特に感慨深い思い出に病院機能評価受審があげられます。実質35ヶ月の超短期間の準備で認定証を授与されたことは病院職員はもとより大学の中職員の危機時の結束力の高さの賜物と感激致しました。14年余にわたる皆様の御厚情に心より感謝と御礼を申し上げ、退職の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 薬剤部の北海道警察本部長表彰と 栗屋薬剤師の刑事部長賞表彰

薬剤部長 松原 和 夫

薬剤部が、どうして警察から表彰されるのだろうかと思われる方が多いでしょう。北海道警察は、年間約6000体の検視を行っています。それらの屍の傍らには薬の錠剤やカプセルが残されているケースが相当数あり、検視にあたる警察官はそれらが何であるかを調べる必要があります。入院患者の持参薬でご存知の方が多いと思いますが、一つ一つの薬が何であるかを照合するのは大変な労力がいらいます。そのため、私が警察に知り合いが多かった事情から、薬剤部には検視現場から薬の照合の依頼電話が頻繁にかかってきていました。一方、薬剤部では何とか前述の持参薬チェックを容易にしたいとの目的から、栗屋薬剤師が錠剤等に記されている記号や薬品名の一部からでも検索できる「薬剤検索システム」を作成していました。そこで、この「薬剤検索システム」を有効に使うと考えると、6年ぐらい前に旭川の検視担当警察官に配布した次第でした。旭川の警察署に勤務されていた警察官が他の街に転勤

になると、そこでもシステムが欲しいとの要望がでるようになり、2年ほど前から全道の警察署に普及するようになりました。その結果として、本年1月に、薬剤部が北海道警察本部長表彰を、栗屋薬剤師が北海道警察本部刑事部長表彰を授与されることになった次第です。一つの社会貢献の結果と考えています。



## 働きやすい職場を目指して 看護師が看護師本来の業務に 専念できる職場づくり



看護部業務担当 稲葉 久子

近年、平均在院日数の短縮や、救急患者・手術件数の増加により、24時間通して重症患者や救急患者の観察・ケア等が拡大傾向にあり、病棟での医療密度は濃くなってきています。病院の形態の変化に伴って業務量が拡大するとき、スタッフを増員するだけで円滑な運営ができるというものではありません。人員の配置、業務の調整、他部門・他職種との連携による業務の効率化は重要となります。看護部は、看護師の業務はベッドサイドケアが基本と考え、業務量の調査等を経て、様々な業務改善を実施してきました。クラークの勤務時間を半日から全日勤務へ拡大し、一日を通しての事務的業務や電話・面会等の窓口対応が可能になり、その間、看護師の業務中断が少なくなりました。また、薬剤部との連携で再開発工事から開始された看護師の混注センターへの協働は、平成19年2月に業務を終了し、午前の業務量の多い時間帯を有効に活用できるようになりました。同時期、懸案だった検査技師による病棟での採血業務は、朝の採血量の多い1病棟で実施することになりました。さらに、看護師との連携強化

を図るため看護助手の業務改善を行ってきました。看護師の増員が難しい中、今年度看護助手の新規採用を行い、各病棟平均3名の配置が実現し、看護師の補助業務を行っています。しかし、土・日・休祝祭日や夜勤は、少ない看護師数で食事の配膳・下膳、処置・治療の物品準備・後始末などを行っている現状があり、シフトの変更に同意の一部の病棟で、看護助手が平日の早朝（7:30から）と、土・日・祝日の勤務に就いています。現在、多くの病棟の土・日・祝日・早朝は看護助手が未配置になっており、看護師が通常業務の合間に助手業務を担っているため、救急患者やADLの介助業務の多い病棟を優先して、新たに看護助手の配置を要望中です。チームの一員として、看護助手との協同態勢が整いつつあります。

専門性が進み、患者が病院を選ぶ時代です。社会の欲求が「安心できる病院」であるならば、医療を提供する側としては、「安全な病院」への取り組みが必要と考えます。看護部の理念のひとつである「信頼される看護サービスの提供」を実現するため、今後も業務改善を通じて努力をしていきます。忙しさに没頭する日常では、「つい、うっかり」による医療ミスも懸念されます。専門職として看護師が常に患者さんの近くにおいてケアに専念できるよう、看護師本来の業務態勢作りを進め、働きやすい職場の環境づくりを継続していきます。

## 「大学の森 みどりの保育園」オープン

1月19日に待望のオープニングセレモニーを迎えた「大学の森 みどりの保育園」は、大学に勤務する子育て世代の仕事と子育ての両立を支援するため開設されました。また、急速な少子化への集中的・総合的な取り組みを進めるため、平成15年7月に成立・公布された「次世代育成支援対策推進法」の支援行動計画の一環でもあります。

この「大学の森 みどりの保育園」は、大学構内の東側にある大学の森の緑豊かな環境の中に設置された、延べ床面積約300平方メートルの平屋建てで、園内は木のぬくもり溢れる優しい空間となっています。

ほし組（0歳）そら組（1歳）かぜ組（2～3歳）たいよう組（4歳～就学前）の4つの保育室には床暖房が完備され、人と環境に優しい素材を使った家具や遊具が使用されています。また、各保育室

やホールからは「大学の森」が見渡せ、春には緑まぶしい風景が子ども達を楽しませてくれることでしょう。

受け入れ対象は、産休明け（生後57日目～）から就学前のお子さんで、定員は38名。大学に勤務する医師・看護師・事務職員など全職員にご利用いただけます。

運営は、全道各地で地域保育園・院内保育園の運営などの子育て事業に取り組む「プライムツーワン」（本社：札幌）が行っており、保育士・本部スタッフ共に、この「大学の森 みどりの保育園」での保育活動に力を注いでいます。（総務課）



旭川市立緑が丘中学校吹奏楽部



1月21日(日)午後2時から、玄関ホールで、緑が丘中学校吹奏楽部の皆さんによるニューイヤーコンサートが開催されました。

第一部は、スライドを使い、映像と物語に合わせた演奏を、第二部は、親しみのある曲目の演奏を行い、入院中の大勢の患者さんは、楽しげな音楽に誘われ、車いすなどで病棟から訪れ、聴き入っていました。(経営企画課)



## 葵 ひろ子 ふれあいコンサート

去る2月18日(日)13:00から、正面玄関ホールで、NHK「昼の民謡」や「ビックショー」に、歌や司会で出演していた、葵ひろ子さんによる、ふれあいコンサートが行われました。「百万本のバラ」などの親しみ深い曲目で、100名を超える入院患者さんたちが癒されていました。

(経営企画課)



## 甲状腺・副甲状腺外科外来開設のお知らせ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 原 洸 保 明

甲状腺は首の前にあり、蝶が羽を広げたような形で、気管を抱きこむように存在している器官です。甲状腺からは体の新陳代謝を活発にし、体調を整えるための重要な甲状腺ホルモンが分泌されています。甲状腺にできる腫瘍は痛みを伴うことはほとんどなく、触れても分かりにくいので診断が遅れがちになります。検査によって偶然に腫瘍が発見されることも多く、声が嚙れたり、首のリンパ節が腫れてから甲状腺に腫瘍が見つかることもあり、早期の診断、治療が重要です。甲状腺に腫瘍ができる病気としては腺腫様甲状腺腫、良性腫瘍(腺腫)、癌などがあります。

副甲状腺は甲状腺の裏側にあり、血液中のカルシウムを調節する器官です。腫瘍ができると副甲状腺ホルモンを多量に分泌し、全身的な症状が出ます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科では甲状腺腫瘍や副甲状腺腫瘍において手術的治療を積極的に行っており、年間の70例以上の手術を行ってきました。

当科では本年1月から毎週火曜日午後16時30分から18時30分に特殊外来として、甲状腺・副甲状腺外科外来を開設いたしました。頭頸部外科を専門とする医師が超音波検査、喉頭ファイバースコープによる声帯の観察、穿刺吸引細胞診、血液検査やいくつかの画像診断を加えて総合的に甲状腺腫瘍を診断し、定期的な診察を行っていきます。

甲状腺・副甲状腺腫瘍の早期の診断と充実した診療を目指したいと考えております。患者様がおられましたら、どうぞ耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来まで御紹介下さいますようお願い申し上げます。

【薬剤部】

新薬紹介 (49)

イトラコナゾール (イトリゾール)  
内用液及び注射用

抗真菌薬であるイトリゾールは、これまでカプセル剤が製造販売されていたが、この度、新たに内用液剤と注射剤が剤形追加された。

内用液は、チェリー様のおいさを有する 1% のシロップであり、効能・効果はカンジダ属による口腔咽頭カンジダ症、食道カンジダ症である。この双方に対し適応を持つ薬剤は、これまで局所性の薬剤のみであり、全身作用を有し、かつ服薬しやすい本薬剤は新たな治療選択肢を提供し得る。すでに発売されていたカプセル剤では食後に服用した方が吸収率が高く、この理由として胃酸分泌量の増加が考えられている。しかし、本剤では胃酸の影響を受けず、逆に空腹時に服用した方が吸収が良く、そのため、用法は通常、成人には 20 ml を 1 日 1 回空腹時に経

口投与となっており、食事を摂取することが困難な患者でも服用できるようになっている。また、服用した液剤が、病変部 (口腔・咽頭・食道) に直接作用する効果も期待できる。

注射剤は、1 アンプル中に 200 mg が含有されており、病原性の真菌感染症に加え、真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症に対する効能・効果を有する。深在性真菌症は、治療の確実性が要求されるが、本剤の使用により深在性真菌症に対して十分な効果が期待できる。投与にあたっては、早期に高い血中濃度を得るために、初期負荷用量として投与開始から 2 日間は 1 日 400 mg を 2 回に分けて点滴静注し、3 日目以降は 1 日 1 回 200 mg を点滴静注する。

本剤は投与の際には、注射液を添付の専用希釈液に混和し、添付の専用フィルターを用いて、独立したラインにて 1 時間かけて点滴静注する必要がある。結晶が析出する可能性がある所以他剤との同時注入を行わないようにし、投与の前後には生理食塩液によるフラッシングを必ず行う。

(薬品情報室 大滝 康一)

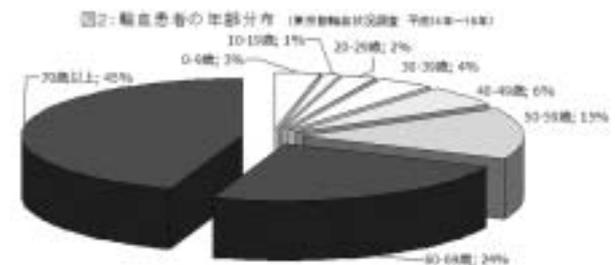
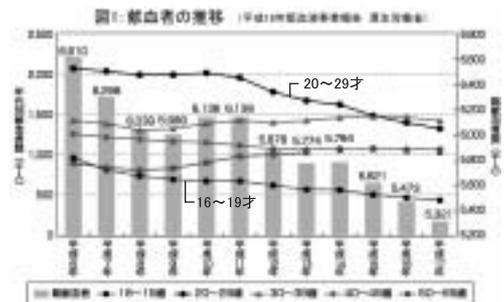
輸血・細胞療法部門発④

少子高齢化と血液不足

2005年、65歳以上の人口が全人口の20%を超えました。その割合は、2010年には22.5%、2015年には26.0%、2020年には27.8%になると推計され、急速な少子高齢化が進んでいます。それにつれて献血者は年々減少しています(図1)。なかでも、10代、20代の献血者数の減少が目立ちます。一方、輸血を要する患者さんの大半は中・高齢者です。東京都で行った調査結果では、輸血患者さんの約70%は60歳以上で、50代も含めると85%にも達します(図2)。この事実の意味するところは、近い将来、輸血を必要とする患者さんに輸血が行き渡らない事態が来るということです。行政と血液センターでは、若年献血者の掘り起こしとドナーリクルートに頑張っています。われわれ医療従事者のできることはただ一つ、“血液の無駄遣いをしない”ということです。手術前には血を貯める、手術では血を出さない、出た血は再利用する、本当に必要な血しか使わない、などなど。今すぐ実行できることは沢山あります。そん

なことは、言われなくても知っていると思っているあなた、一度「血液製剤の使用指針」をお読み下さい。正しい知識を身につけて、急速に進行する少子高齢化による血液不足に備えましょう。

(臨床検査・輸血部 副院長 紀野 修一)



## スターバックス コーヒー開店

3月1日(木)朝7:30、正面玄関ホールに、スターバックスコーヒーが開店しました。

道内では、初の病院内の店舗となります。

ホールにはコーヒーの香りが漂い、待ちかねた入院患者さんや職員が、早速行列を作り、朝食やコーヒーを購入していました。

営業時間は、平日が午前7:30~午後7:30、土日祝日が午前8:30~午後7:30までで、年末年始を除き、年中無休となっています。

(経営企画課)



## 平成 18 年度 患者数等統計

区 分	外 来 患 者 数			一日平均 外来患者数	院外処方 箋発行率	紹介率	入院患者 延数	一日平均 入院患者数	稼働率	前年度 稼働率	平均在 院日数 (一般病棟)
	初 診	再 診	延患者数								
10 月	人 1,385	人 26,379	人 27,764	人 1,322.1	% 70.92	% 59.13	人 16,428	人 529.9	% 88.03	% 89.50	日 18.77
11 月	1,278	25,304	26,582	1,329.1	70.20	58.92	16,129	537.6	89.31	91.76	18.99
12 月	1,330	24,891	26,221	1,311.1	69.70	57.67	15,608	503.5	83.64	86.76	18.26
計	3,993	76,574	80,567	1,320.8	70.27	58.57	48,165	523.7	86.99	89.34	18.67
累 計	12,650	228,094	240,744	1,294.3	70.09	57.28	144,348	524.9	87.19	89.62	18.35
同規模医科 大学平均	13,982	170,614	184,596	988.8	83.80	51.42	142,792	519.2	85.55	86.12	19.46

稼働率は、承認病床数(602床)により算定している。

(経営企画課)

## 編集後記

### 渡り廊下での暗黙の了解

昨年頃より頻繁にマスコミに登場する「産科崩壊」に関して、当教室では前々医局長の頃(つまり5年以上前)から、それなりの策をとり、各病院や行政に対して様々な申し入れも行ってきましたが、結局は我々だけが悪者扱いされるだけだったのを覚えています。いつも「旭川医大、医師引き上げ、…」などと書かれておりますが、大学病院の産婦人科医師は減少の一途であり、以前の2/3の人員で、1.5~2倍の仕事をこなしている状況です。これは当科に限らず他科でも同様の状況が程度差はあっても現在進

行系と聞いています。同期の先生方とまだ寒い渡り廊下をすれ違う度に昔の血色のいい顔からは程遠い疲れ果てた顔を見合いながら苦笑いしている毎日です。「うん、うん、何も言わなくてもわかっているから、…」と。(周産母子センター 田熊直之)

## 時事ニュース

- 1 / 1 感染制御部設置
- 1 / 23 個人情報保護に関する講演会
- 2 / 7 病院立入検査(医療監視)
- 2 / 26 精神病院実地指導